

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600307	事業の開始年月日	平成22年12月1日	
		指定年月日	平成22年12月1日	
法人名	株式会社日本アメニティライフ協会			
事業所名	花物語さがみ北			
所在地	(〒252-0141) 神奈川県相模原市緑区相原3-7-39			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成29年2月6日	評価結果 市町村受理日	平成29年6月30日	

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自治会や近隣の皆様のホームへの理解、協力が厚く、施設側の地域行事への参加、近隣の皆様の施設行事への招待などを通じて、積極的に交流を図っている。
各ユニットにおける日々のレクリエーションのほか、毎月外部から来られるボランティアの方々との交流など、良好なコミュニケーションが築けるように支援させて頂いている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成29年3月16日	評価機関 評価決定日	平成29年5月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR横浜線「相原駅」より徒歩14分、または駅から神奈中バスで、バス停「相原小学校前」下車、徒歩3分の閑静な住宅街に位置しています。事業所の運営は、神奈川県内を中心にグループホームや介護付有料老人ホーム、訪問看護などの多くの福祉事業を展開している株式会社が担っています。

<優れている点>

事業所の名称の「花」とは、「利用者様が主人公となって、すてきな花を咲かせ、すばらしい生活を送っていただきたい」との思いが込められています。一方、事業所の理念では「利用者もスタッフも楽しんで」をかかげて実践に努めています。毎年、事業所の祭り「敬老花会」を家族や地域の人々の参加・応援のもとで開催し、利用者の楽しみとなっています。模擬店や太鼓・歌などの催しがあり、利用者や職員が地域の人と楽しく触れ合い、親交を深める機会となっています。また職員が多様な才能を発揮して行事を一層盛り上げています。日々、各ユニットでは、職員の明るい発声のもとで、体操・歌・口腔体操などのレクリエーションを、利用者が楽しみながら行えるように取り組んでいます。

<工夫点>

介護サービスの質の向上及び人材育成を図るため、OJTや事業所内研修、外部研修の受講について法人本社と連携して実施しています。また自己研鑽や新たな資格取得へ職員の意識向上を図っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語さがみ北
ユニット名	ユニット①

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を玄関、各フロア、スタッフルームに掲示するとともに、担当者会議等の場で機会があるごとに理念の共有に努め、実践につなげている。	事業所理念として「敬意と尊厳を忘れずに、利用者もスタッフも楽しんで」などの5項目を掲げて、フロアなどに掲示しています。担当者会議や「自己チェックシート」の1項目にも取り挙げるなど、職員の意識を高め、実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	施設行事の案内、ボランティアの受入れ、自治会、地域行事への参加などにより交流を図っている。	地域とは互いの行事などに参加し、交流を図っています。地域の盆踊りやどんど焼きなどに利用者・職員が参加しています。事業所の駐車場を地域の祭りの神輿や山車の休憩所として利用してもらっています。利用者は祭りを間近で楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の場での施設行事への案内や、地域行事への参加をする中で、認知症の理解が発信できていると思われる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は年に6回を予定し、会議を通じてホームでの様子、取組みを報告し、会議の場で頂く意見を参考にサービスの向上に努めている。	事業所の職員の異動及び活動状況などを報告し、意見をもらいサービス向上に活かしています。委員として自治会代表及び高齢者支援センター職員などの出席があります。自治会代表委員からは地域行事の情報提供及び参加の呼びかけなどがあります。	運営推進会議への利用者・家族の出席について引き続き検討が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	緊急性のある入居希望あるいは、介護保険に関わる諸手続きなど、分からない事を問合せし、適切な指導を頂いている。	利用者の介護保険更新申請手続き代行などについて区の助言・指導を受けています。事故報告では区へ速やかに電話し、後で直接「報告書」を持参しています。職員がブロックのグループホーム連絡会に参加し、事例検討などの研修を受けています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については重要事項説明書の運営規程に明示するとともに、年度研修計画に盛り込んで教育し、理解を深めている。	研修や会議を通して禁止の行為及び弊害などについて職員の意識を高めています。危険防止のためフロアの出入口は施錠していますが、利用者の外出の気配がある時は、速やかに散歩などの対応をしています。また利用者の気持ちを感じとり、安心できる居場所作りに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法については研修を行い、一切行われていないことを確信している。また管理者も見逃すことのないよう、日々のケアには十分注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については、年度研修計画に盛り込み社内研修を予定している。管理者は更に知識を深め、必要となりうる場合に助言が出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は、重要事項説明書、入居契約書など説明しながら、その都度問題点が無いかを確認している。また署名、押印後も自宅で再度内容を確認して、疑問を持ち続けることのないよう契約者に伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族の意見・要望は、日頃から話しやすい関係を作ることに努め、いつでも意見を出せるようにご意見BOXを設置している。	家族が面会のために、或いは行事で来所した際に、話しやすい関係を大切にしています。毎月の請求書送付に合わせて利用者の日常の様子が見える写真などを同封し、伝えています。傾聴ボランティアが利用者から聞きとった情報も大切にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、各ユニットで会議を開催し、職員の意見や要望を聞き、事業所内で解決できない問題などは本部担当者を通じて代表者へ伝達する等、会社全体としての対応をしている。	毎月のユニット会議で職員と意見交換をしています。職員は、管理者と年2回の個人面談の際に意見などを伝えることができます。必要により、管理者がエリア会議で情報発信、或いは本社へ直接伝達し、会社全体で対応する仕組みがあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働基準法に則した労働環境を作っている。資格支援制度により資格取得へのバックアップや資格取得者への賃金の見直し、改善など、職員が働きがいのある職場を作る努力を代表者は整えてくれている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内（入社時研修）、法人外（法人企画研修）、あるいは事業所内でも研修を行い、職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相模原市グループホーム連絡会や地域密着型サービスの情報交換会、講演会等を通じて交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に、本人・家族から生活環境や生活歴・習慣・趣味などの情報を得て、職員間で共有し、入居後の環境変化で不安や困惑が大きくなるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の間合せ・申し込みを受けた時から、入居を考えた経緯や本人の状態・心配ごとなど十分に話したうえで、ホームの理念や対応を伝え信頼していただけるような説明を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の生活状況を、家族・担当ケアマネージャーから情報を入手し、本人・家族にとって必要なサービスが選択でき、助言も出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることへの働きかけを大切にしている。共に生活する環境づくりは、日常生活において管理者・職員とも常に心がけており、家事や物作りなど、様々な場面で共同生活をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居時に面会や家族との外出は本人の楽しみでもあり、家族との関係が絶える不安から解消される一つでもあることを伝え、理解を求めている。誕生会や行事なども案内して、一緒に過ごせるように時間を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居時に、家族の写真や馴染みのものを飾っていただき、写真などを見ながら思い出を話す機会を作っている。施設内行事には、家族他ご友人にも家族を通して参加を案内している。	大切な家族を忘れないよう部屋に写真を置いてもらっています。また家族が来所して、利用者や家族の思い出話や、今の様子を歓談してもらうことを大切にしています。誕生会などの行事に家族へ参加案内をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	居室にこもる、会話に参加できないなどの場面を作らないように職員が仲介したり、レクリエーションや散歩など協力しあう機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去も様子を伺ったり、入院の場合はお見舞いなどを行っている。ご家族の方が気軽に立ち寄ることができる雰囲気を作るように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に家族や利用しているサービス事業所、担当ケアマネージャーなどから情報収集して、家族・本人の意向を把握するよう努めている。	利用者にとってどのように暮らすことが最良なのか家族を交えて検討しています。日常活動の中で利用者が表出する言葉・行動などから意向を把握・感じとることを大切にしています。利用者や家族の意向は記録し、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族の構成、生活歴、病歴、認知症状への家族の理解、たいおうなど可能な限り把握。またサービスの利用についても、いつごろからどのようなサービスを利用していたかも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定時のバイタル測定、食事摂取量、排泄状況、睡眠、活気などを観察・記録し、日々の様子を継続して把握できるように努めている。メリハリある生活ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護サービス計画書は第一に本人の意向を反映。家族の意向、主治医、看護師からの身体状況などの意見を聞き、担当者会議で話し合い、計画作成担当者がまとめ作成している。	利用者や家族との日頃の関わりの中で思いや意見を把握し、反映させるようにしています。また担当者会議で、利用者の食事・排泄・入浴・日中の様子などについて職員の意見をもとに、計画作成者がまとめる仕組みとなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録には、日中の様子や他者との関わり、ケアの実践などを記録し、日勤者・夜勤者間で申し送られ、継続して情報が伝達できるようにしている。適切なケアをするため計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外部からのボランティアの受け入れや、地域住民の協力を得て、多様なサービスの実施に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会活動を通じて、個々の社会性の維持と事業所としての地域との協力は不可欠と考えていることから積極的に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医については、入居契約時に入居前かかりつけ医を継続するか事業所の協力医療機関に変更するかを話し合い、本人及び家族の選択としている。入居前かかりつけ医を利用する場合においても、同様の支援、情報の提供などを行っている。	利用者・家族の了解のもと事業所の現在の提携医と以前の提携医がかかりつけ医です。どちらも月2回の往診を行っています。週2回看護師が健康管理に来ています。歯科医は週1回希望者の往診に来ています。医療機関とは24時間連携可能となっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週2回の看護師による健康チェックの際、心身の変化を報告、適切な対応や受診が受けられるよう、主治医への伝達もお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は入院中の様子経過などの情報を入院先医療機関より得ている。また退院に向けてはメディカルソーシャルワーカーや入院先担当医、本人の主治医との情報交換、家族への連絡などを密にとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	「利用者の急変時や重度化した場合等における対応に係る指針」を策定し、契約時説明、話し合い、家族に同意を得ている。事業所内でも法人としての方針を伝え、そのような場面の支援について話し合いの機会を作っている。	入所時に重度化についての指針を説明しています。職員は看取りについて研修を受けています。医療行為の伴わない見取りを行うことで説明していますが、まだ看取りの経験はありません。実際に重度化した場合、家族・医師・管理者と納得のいくまで話し合いを持つこととなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時に備え、マニュアルを職員に配布、会議でも話し合いを行っている。また事例をもとに検討会を開き、原因、対応、防止策などの話し合いを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業所独自の「防火管理マニュアル」及び「地震災害対処マニュアル」を作成するとともに、年度研修計画に盛り込んで職員教育を行い、年2回の避難訓練を実施している。非常食、飲料水、介護用品などを備蓄し災害時に備えている。災害時に手動で使用可能な自動販売機を設置している。	年2回、消防署の立ち会いで夜間想定通報・消火・避難訓練を行っています。自治会の防災避難訓練には管理者が参加しています。「防火管理」、「地震災害対処」の研修をマニュアルを基に行っています。AEDも設置しており、使用訓練も行っていきます。地域社会に貢献する災害支援型自動販売機を設置しています。	今後は、事業所の訓練について、地域の人々への周知、及び参加への呼びかけの検討が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「認知症の対応は声掛けが重要」との認識は全職員に浸透し、実践できていると思われる。	新入職時に接遇研修を行なっています。また、毎年、個人情報研修などを行い、職員の理解を深めています。不適切な声掛けがあれば、職員同士で注意し合っています。毎年1回自己チェックシートで声掛けを含む対応を振り返っています。個人情報資料は鍵のかかるキャビネットに保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員とのコミュニケーションを取りながら思いやりや希望が率直に現わせる環境づくりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事、10時、15時のお茶時間以外は本人の生活リズムや希望に沿った生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った衣服を着替えの際選んでいただいている。食後など食べこぼしで汚れた場合は必ず交換している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事への楽しみが持てるようにメニューを知らせたり、食材と一緒に下ごしらえをしたりしている。季節行事にあったメニューも都度提供している。食事前後の準備、片付けとも男女を問わず、その時にできる方をお願いしている。	味噌汁作りや下膳、食器洗いなどで利用者が参加しています。利用者の希望で駅前のスーパーのフードコートに外食に行ったり、汁粉が食べたいとの希望で一緒に作って食べています。また、クリスマスや誕生会では利用者と一緒にケーキを作るなど、食事を楽しむ工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量、水分量は個人記録に記録し体調の変化の一つの目安にしている。利用者個々に形態も変え、栄養面でもカロリー計算された食事を提供し栄養のバランスが取れるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアは必ず行っている。口腔内に問題が生じた場合は連携している訪問歯科の往診時に相談し必要に応じて継続した診察、口腔ケアをお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄は自尊心を傷つけないよう配慮している。記録をもとに個々の排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄が継続できるよう昼夜ともに支援している。	排泄チェック表で利用者のパターンを把握し、適切なトイレ誘導をしています。そのためリハビリパンツ+パッドであった人がリハビリパンツだけになったり、トイレの回数が減ったりと改善されています。必要な利用者には了解のもと、便器内確認をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘・硬便の予防として、主食・副食とも軟らかめに調理している。水分摂取量も1日1300CCを目安にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は、衛生状態を考慮しながら、本人の希望を可能な限り聞いている。入浴担当者とコミュニケーションを取りながら、楽しい気分で入浴ができるように支援している。	午前2人、午後1人の一日3人で、週最低2回は入浴することを基本にしています。1人ごとに湯船の湯を取り換えています。入浴を楽しむため、ゆず湯やしょうぶ湯も行っており、利用者好みの入浴剤も使っています。入浴時に職員と話したり、楽しく歌を歌う人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝・起床時は、これまでの生活習慣を考慮した時間で促している。日中に長時間の休息で、夜間の安眠に影響がないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬については医師の指示通りに服薬介助している。服用したことによる変化は医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常的に洗濯物、食事作り、掃除などの家事全般を一緒に行うことで職員との一体感が持てている。その中から役割や楽しみを感じているように見受けられる。また季節ごとの行事などにより楽しむ時間も作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩は身体状態に合わせて取り組んでいる。本人が望んでいる場所への外出は家族に協力いただいている場合もあるが、可能な限り支援できるように努めている。	天気の良い日には散歩に出て、川の鯉を見たり、鯉に餌をやったりしています。毎年、梅・桜・あじさいの花見の頃に、北公園や城山公園に見に行っています。家族と散歩に行ったり、食事に行ったりする利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人・家族の意向により、お金を所持することで安心感を持てる場合や買い物希望の場合は見守りながら紛失のないように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙は交信できるように取り次いでいる。年賀状や季節の挨拶状なども書いていただき、家族・友人との関係が途切れないよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	事業所内は清潔を心掛け、全てにおいて不快感につながるものがないよう配慮している。玄関には毎週生け花を季節の花に入れ替え、楽しめるようにしている。	朝は利用者も参加して、1日2回の掃除で清潔を保っています。玄関には金魚鉢のようなガラス容器で、グリーンレタスの水耕栽培を行っています。冬期は感染症予防のため、加湿器を設置しています。壁には桜や富士山、鯉のぼりなど利用者が作ったちぎり絵や、イベント時の利用者の笑顔の写真が飾ってあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者の状況に応じて食卓とソファの配置を考慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は、ベッド以外は本人が使い慣れたものを持ち込み、家族と一緒に安全な配置を確認している。習慣なども考慮し必ずしもベッドではなく、直接寝具を使用している場合もある。	ギャッジベッド、エアコン、照明、クローゼットが備え付けです。利用者は机、いす、テレビなど、使い慣れたものを持ち込んでいます。電話を設置している人もいます。居室担当の職員が衣替えの手伝いをしています。表札の端に避難時の移動手段を色表示しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各フロアすべてバリアフリーとなっている。トイレや浴室など大きな文字で表示している。洗剤などは収納BOXに収納して直接目に触れないように工夫している。		

事業所名	花物語さがみ北
ユニット名	ユニット②

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を玄関、各フロア、スタッフルームに掲示するとともに、担当者会議等の場で機会があるごとに理念の共有に努め、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	施設行事の案内、ボランティアの受入れ、自治会、地域行事への参加などにより交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の場での施設行事への案内や、地域行事への参加をする中で、認知症の理解が発信できていると思われる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は年に6回を予定し、会議を通じてホームでの様子、取組みを報告し、会議の場で頂く意見を参考にサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	緊急性のある入居希望あるいは、介護保険に関わる諸手続きなど、分からない事を問合せし、適切な指導を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については重要事項説明書の運営規程に明示するとともに、年度研修計画に盛り込んで教育し、理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法については研修を行い、一切行われていないことを確信している。また管理者も見逃すことのないよう、日々のケアには十分注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については、年度研修計画に盛り込み社内研修を予定している。管理者は更に知識を深め、必要となりうる場合に助言が出来るように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は、重要事項説明書、入居契約書など説明しながら、その都度問題点が無いかを確認している。また署名、押印後も自宅で再度内容を確認して、疑問を持ち続けることのないよう契約者に伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族の意見・要望は、日頃から話しやすい関係を作ることに努め、いつでも意見を出せるようにご意見BOXを設置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、各ユニットで会議を開催し、職員の意見や要望を聞き、事業所内で解決できない問題などは本部担当者を通じて代表者へ伝達する等、会社全体としての対応をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働基準法に則した労働環境を作っている。資格支援制度により資格取得へのバックアップや資格取得者への賃金の見直し、改善など、職員が働きがいのある職場を作る努力を代表者は整えてくれている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内（入社時研修）、法人外（法人企画研修）、あるいは事業所内でも研修を行い、職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相模原市グループホーム連絡会や地域密着型サービスの情報交換会、講演会等を通じて交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に、本人・家族から生活環境や生活暦・習慣・趣味などの情報を得て、職員間で共有し、入居後の環境変化で不安や困惑が大きくなるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の間合せ・申し込みを受けた時から、入居を考えた経緯や本人の状態・心配ごとなど十分に話したうえで、ホームの理念や対応を伝え信頼していただけるような説明を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の生活状況を、家族・担当ケアマネージャーから情報を入手し、本人・家族にとって必要なサービスが選択でき、助言も出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることへの働きかけを大切にしている。共に生活する環境づくりは、日常生活において管理者・職員とも常に心がけており、家事や物作りなど、様々な場面で共同生活をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居時に面会や家族との外出は本人の楽しみでもあり、家族との関係が絶える不安から解消される一つでもあることを伝え、理解を求めている。誕生会や行事なども案内して、一緒に過ごせるように時間を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居時に、家族の写真や馴染みのものを飾っていただき、写真などを見ながら思い出を話す機会を作っている。施設内行事には、家族他ご友人にも家族を通して参加を案内している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	居室にこもる、会話に参加できないなどの場面を作らないように職員が仲介したり、レクリエーションや散歩など協力しあう機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去も様子を伺ったり、入院の場合はお見舞いなどを行っている。ご家族の方が気軽に立ち寄ることができる雰囲気を作るように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に家族や利用しているサービス事業所、担当ケアマネージャーなどから情報収集して、家族・本人の意向を把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族の構成、生活歴、病歴、認知症状への家族の理解、たいおうなど可能な限り把握。またサービスの利用についても、いつごろからどのようなサービスを利用していたかも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定時のバイタル測定、食事摂取量、排泄状況、睡眠、活気などを観察・記録し、日々様子を継続して把握できるように努めている。メリハリある生活ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護サービス計画書は第一に本人の意向を反映。家族の意向、主治医、看護師からの身体状況などの意見を聞き、担当者会議で話し合い、計画作成担当者がまとめ作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録には、日中の様子や他者との関わり、ケアの実践などを記録し、日勤者・夜勤者間で申し送られ、継続して情報が伝達できるようにしている。適切なケアをするため計画の見直しもを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外部からのボランティアの受け入れや、地域住民の協力を得て、多様なサービスの実施に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会活動を通じて、個々の社会性の維持と事業所としての地域との協力は不可欠と考えていることから積極的に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医については、入居契約時に入居前かかりつけ医を継続するか事業所の協力医療機関に変更するかを話し合い、本人及び家族の選択としている。入居前かかりつけ医を利用する場合においても、同様の支援、情報の提供などを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週2回の看護師による健康チェックの際、心身の変化を報告、適切な対応や受診が受けられるよう、主治医への伝達もお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は入院中の様子経過などの情報を入院先医療機関より得ている。また退院に向けてはメディカルソーシャルワーカーや入院先担当医、本人の主治医との情報交換、家族への連絡などを密にとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	「利用者の急変時や重度化した場合等における対応に係る指針」を策定し、契約時説明、話し合い、家族に同意を得ている。事業所内でも法人としての方針を伝え、そのような場面の支援について話し合いの機会を作っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時に備え、マニュアルを職員に配布、会議でも話し合いを行っている。また事例をもとに検討会を開き、原因、対応、防止策などの話し合いを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業所独自の「防火管理マニュアル」及び「地震災害対処マニュアル」を作成するとともに、年度研修計画に盛り込んで職員教育を行い、年2回の避難訓練を実施している。非常食、飲料水、介護用品などを備蓄し災害時に備えている。災害時に手動で使用可能な自動販売機を設置している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「認知症の対応は声掛けが重要」との認識は全職員に浸透し、実践できていると思われる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員とのコミュニケーションを取りながら思いやりや希望が率直に現わせる環境づくりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事、10時、15時のお茶時間以外は本人の生活リズムや希望に沿った生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った衣服を着替えの際選んでいただいている。食後など食べこぼしで汚れた場合は必ず交換している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事への楽しみが持てるようにメニューを知らせたり、食材と一緒に下ごしらえをしたりしている。季節行事にあったメニューも都度提供している。食事前後の準備、片付けとも男女を問わず、その時にできる方をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量、水分量は個人記録に記録し体調の変化の一つの目安にしている。利用者個々に形態も変え、栄養面でもカロリー計算された食事を提供し栄養のバランスが取れるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアは必ず行っている。口腔内に問題が生じた場合は連携している訪問歯科の往診時に相談し必要に応じて継続した診察、口腔ケアをお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄は自尊心を傷つけないよう配慮している。記録をもとに個々の排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄が継続できるよう昼夜ともに支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘・硬便の予防として、主食・副食とも軟らかめに調理している。水分摂取量も1日1300CCを目安にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は、衛生状態を考慮しながら、本人の希望を可能な限り聞いている。入浴担当者とコミュニケーションを取りながら、楽しい気分で入浴ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝・起床時は、これまでの生活習慣を考慮した時間で促している。日中に長時間の休息で、夜間の安眠に影響がないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬については医師の指示通りに服薬介助している。服用したことによる変化は医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常的に洗濯物、食事作り、掃除などの家事全般を一緒に行うことで職員との一体感が持てている。その中から役割や楽しみを感じているように見受けられる。また季節ごとの行事などにより楽しむ時間も作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩は身体状態に合わせて取り組んでいる。本人が望んでいる場所への外出は家族に協力いただいている場合もあるが、可能な限り支援できるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人・家族の意向により、お金を所持することで安心感を持てる場合や買い物希望の場合は見守りながら紛失のないように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙は交信できるように取り次いでいる。年賀状や季節の挨拶状なども書いていただき、家族・友人との関係が途切れないよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	事業所内は清潔を心掛け、全てにおいて不快感につながるものがないよう配慮している。玄関には毎週生け花を季節の花に入れ替え、楽しめるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者の状況に応じて食卓とソファの配置を考慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は、ベッド以外は本人が使い慣れたものを持ち込み、家族と一緒に安全な配置を確認している。習慣なども考慮し必ずしもベッドではなく、直接寝具を使用している場合もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	各フロアすべてバリアフリーとなっている。トイレや浴室など大きな文字で表示している。洗剤などは収納BOXに収納して直接目に触れないように工夫している。		

平成28年度

目標達成計画

事業所名 花物語 さがみ北

作成日： 平成29年6月26日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	利用者家族に呼びかけているが、28年度は参加者がいなかった。	29年度は利用者も含め家族に参加して頂く。	家族会や行事に合わせ、参加しやすい方法にし、曜日なども聞き取りしながら日程を早目に告知して参加を呼び掛ける。	12ヶ月
2	35	地域の人々の参加者がいなかった。	29年度は自治会の方や地域の人々に参加して頂く。	近隣住民の参加しやすい方法にし、アピールをして参加を呼び掛ける。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月